

呉市医師会病院での 創傷への取り組み

～難治例～

呉市医学会 H23年11月27日



医療法人社団たつき会菅田医院 菅田宗樹○

呉市医師会病院 NST褥創委員

藤森雅彦	吉田誠	土井田あや子	小玉ルミ子
実重みどり	藤井留美	古田裕佳	倉岡美鈴
有満恵子	森田佐智子	岩本治子	室智美
先森満子	岸本和子	椋田彩香	木坂裕美子
助永麻美	久能俊之		

目的

- ラップ療法についておさらい
- 症例を確認しながら、外用剤や被覆材の選択について検討
- 方向性と課題確認

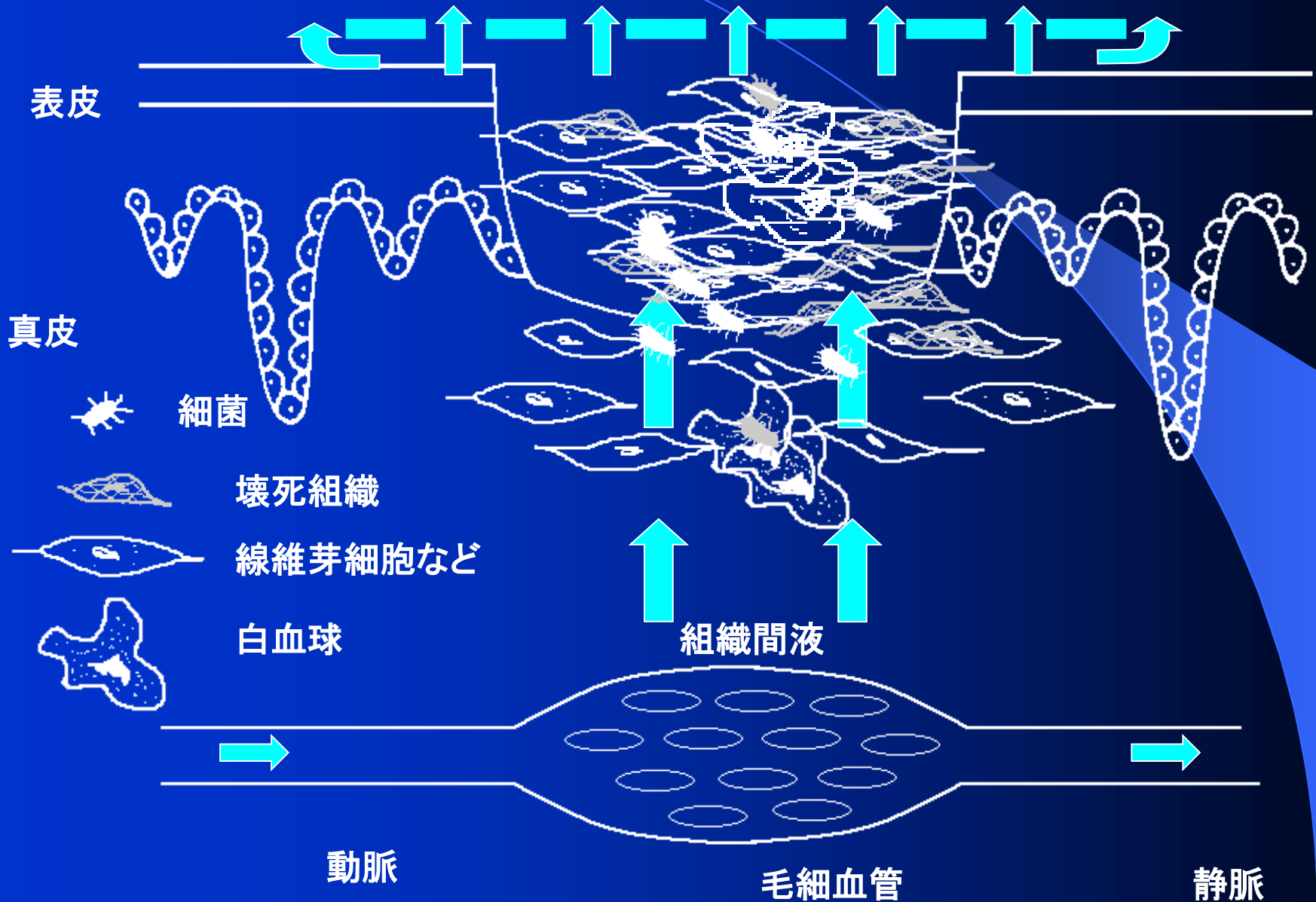
穴あきポリエチレン袋+オムツ



作成が簡便、オムツがあるところはこれ一枚
四肢などには尿取りパットをあてて吸収

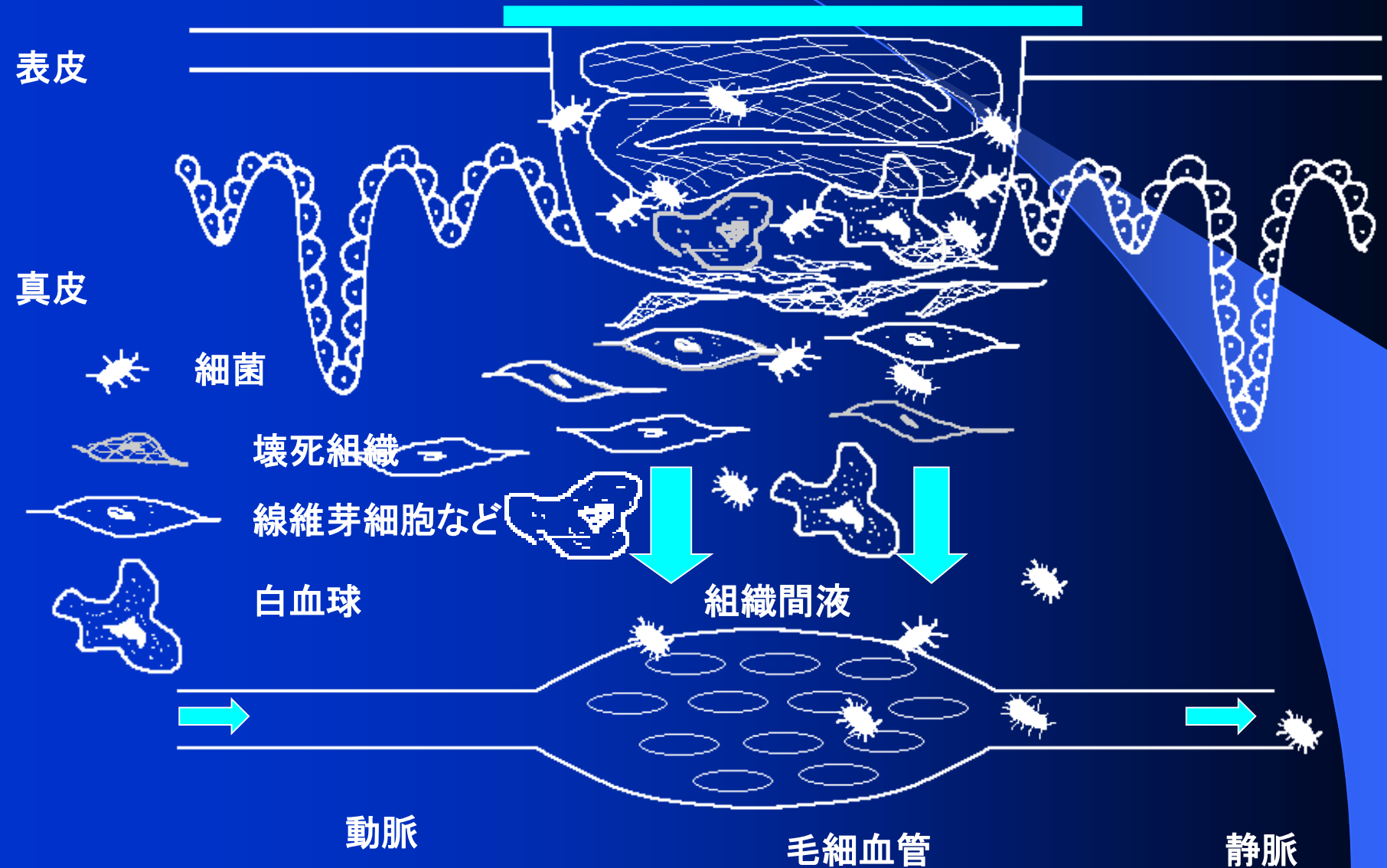
浸出液を味方にするラップ療法

穴あきプラスチックフィルム。



褥創感染創を閉鎖すると

トップドレッシング



症例69歳 脳梗塞後遺症

5年前、1年前に仙骨褥瘡切開排膿処置も完治せずゲーベン、ガーゼ処置継続

入院時ポケット
全周性約4cm



入院5日目開口部縮小
ポケット全周性に約2cm



入院19日目ポケット
10時方向へ約1cm



全経過を通してワセリン+ラップ療法を実施

クリーム基材の外用剤は治癒遅延につながることを念頭に置く必要がある。
このような開口部が狭い創は創内圧上昇する恐れがあり慎重に対処する必要あり
湿潤環境の維持により創傷治癒は促進される。

症例7 3歳 交通事故右脛骨骨折後

手術部皮膚壊死にてプレート抜去 消毒+フィブラストスプレー+デュオアクティブ処置

術後4か月半入院時



湿潤環境維持及び肉芽
促進目的でプロスタン
ディン軟膏+ラップ療法
実施

入院3週間後



湿潤環境維持及び上
皮化促進目的でフィブ
ラストスプレー+ラップ
療法実施

入院約1か月後



ほぼ上皮化し
退院

肉芽促進は血流改善作用、上皮化は上皮細胞遊走を促進する薬剤選択が好ましいと思われ、ハイドロコロイドは創内圧を高め安易に使用しないことが望ましい

症例8 1歳 肺炎 脳梗塞後遺症

寝たきり状態 2か月半前から前医治療(アクアセル、デュオアクティブ)

入院時



密閉過湿潤により
過剰肉芽形成

入院12日後



ステロイド外用軟膏
で過剰肉芽縮小

入院16日後



入院23日後
上皮化し治癒

被覆材の選択が重要で湿潤治療を
行った場合の欠点を把握し対処を適
切に行うことが重要

考察・まとめ

- 湿潤治療がスタンダードとなり、近年様々な被覆材が登場し創にあった被覆材の選択に習熟した医療者がまだまだ少なく合併所などの対処に苦慮するケースが見られる。
- 外用剤の選択に基材の検討が十分でなく、また薬効に囚われる傾向が見られ、それぞれの特性を理解し使い分けなければ治癒を遅らせることがある。
- ラップ療法に否定的な方もいるが、簡単、低コストで効果的な治療法である。しかしながら万全な治療法はなく創を注意深く観察することはどのような治療を行う上でも大事なことである。